

議事概要		司会進行		記録者	
		牛久市役所 経営企画部 政策企画課 課長 柳田		筑波総研株式会社 コンサルティング部 主任研究員 小泉	
1. 会議名	令和元年度第1回 牛久市総合計画審議会				
2. 開催日時	令和2年1月23日(木) 15時00分～	開催場所		牛久市保健センター2階 研修室	
3. 委員 (敬称略)	出席者	氏名	所属・職名		
	◎会長 ○副会長	岡本 直久◎ 山本 幸子 堀 賢介 秋山 昌範 野口 憲 徳生 明正 山越 康義 芦田 亜里香○ 諏訪 浩子 御代川 栄子 種子田 孝子 滝本 昌司	筑波大学教授 筑波大学准教授 弁護士、牛久行政不服審査会会長 環境カウンセラー、県まちづくりアドバイザー 牛久市区長会長 牛久市商工会長 牛久市農業委員会会長 牛久市教育委員 きらきらスペース(子ども食堂)代表 牛久市障がい者連合会会長 牛久市文化協会会長 副市長		
4. 議題及び会議 の公開又は非 公開の別	公開		傍聴人の数	0人	
5. 事務局	牛久市経営企画部政策企画課／筑波総研株式会社				
6. 次第	1. 開会 2. 副市長あいさつ 3. 委員委嘱 4. 会長・副会長選任 5. 諮問 6. 議事 (1)牛久市第4次総合計画の策定について (2)牛久市第3次総合計画後期基本目標進捗状況について 7. 閉会				
7. 議事内容	別紙参照				
8. 連絡事項等	次回開催予定日 2020年4月中下旬※詳細は追って通知				

次第	発言者	内容
2. 副市長挨拶	滝本副市長	委員委嘱のご快諾への御礼 市を取り巻く環境 審議会の役割 等
3. 委員委嘱	-	委員の委嘱後、各委員よりご挨拶をいただいた。
4. 会長・副会長選任	-	省略
5. 諮問	-	省略
6. 議事 (1) 牛久市第4次総合計画の策定について	事務局	事務局より配付資料に基づき、説明。
	委員	17 ページの内容（少子高齢化の進展）について、将来人口推計の値が2025年まで増加しているが根拠はあるのか。
	事務局	本データは、国立社会保障・人口問題研究所が推計したものである。前回、前々回の国勢調査の結果では、当市の人口が増加基調にあったことから、そのような推計となっている。
	会長	第2次総合戦略についても議論する場が別にあると思うが、それとこの会議の関係はどうなっているのか。
	事務局	まち・ひと・しごと創生総合戦略を推進するために、本審議会のような会議体がある。2つの計画は別の計画だが、非常に密接な関係にあり、皆様には総合計画を審議いただき、まち・ひと・しごと創生総合戦略については、まち・ひと・しごと創生推進会議にて議論いただくこととなる。
	委員	それぞれの会議体の整合性はどうか。
	事務局	それぞれの会議での内容を事務局から報告しつつ、会議間の整合性を図っていきたいと考えている。
	会長	総合計画は、基本構想と基本計画で構成される。スケジュールを見ると、基本構想の答申を行うこととなっているが、基本計画の議論についてはどのようになっているのか確認しておきたい。
	事務局	基本計画は、策定委員会の中で策定していく予定である。その後、パブリックコメントで市民から意見をいただき、それを反映していきたい。皆様に審議いただくのは、基本構想の部分である。
	会長	策定委員会の基本計画の検討の中で、意見は審議会へのフィードバックがあるということでしょうか。
	事務局	ご認識の通りである。 牛久市第3次総合基本計画概要版の2ページ目と3ページ目が基本構想といわれるもの。基本構想の、まちづくりの将来像と施策大綱という2つの部分について、皆様に議論していただくこととなる。
会長	資料の10ページ・11ページ（施策大綱・基本理念に基づく方向性）の、	

<p>6. 議事 (1) 牛久市第 4 次総合計画 の策定について (続き)</p>		7つの理念に対して、4～5つの方向性を決定するまでが当審議会の内容で良いか。
	事務局	ご認識の通り。
	委員	10年間の基本構想のスケジュールを一気に20年間に変えるとある。長期ビジョンの大切さは認識したが、この部分をもう少しわかりやすく理由をご説明いただきたい。 また、7つの施策大綱で、少し変更されている内容があるが、変更した理由についても併せて説明いただきたい。
	事務局	基本構想の見直しだが、20年間の明確な根拠があるわけではない。基本構想は長期的なスパンで将来展望を示すものであり、先のことを正確に描くのは難しいが、長期的な展望をもって、そこに向かって進めていくのが良いのではないかと考える。 また、総合計画の7つの政策のくくりが変わっている箇所がある。特に「しごと」「都市機能」「生活環境」について、言い方を変えたりしている。その他調整により若干構成が変わったが、確定ということではない。今後の検討の中で意見があればあげていただきたい。
	委員	アンケートについて、13ページ(アンケート・ワークショップ概要)の調査目的「総合戦略の4分野の政策評価と今後の展開の検討に活用」のところで、総合計画の委員会に使う場合に、「総合戦略の4分野の政策評価」という内容とあるが、総合計画の7分野を考える上で、どのように集計する予定か。
	事務局	牛久市では毎年「市民満足度調査」を実施しており、第3次総合計画の施策に対し、どの施策を充実してほしいかというニーズ調査を行っている。毎年の調査結果の積み上げがあり、この結果を総合計画の7つの分野に対して反映可能と考えている。 一方で、総合戦略に活かせるアンケートがあまりない状況にあることから、12月に実施したアンケートで、総合戦略につながるよう、実際にどのような取り組みをしていくべきかという、より具体的なアンケートを行った。
	会長	基本構想の期間を20年にすることについては、私も当初疑問を呈したが、世の中はスピーディに動いている。5年前にはなかったサービスがどんどん出てきている。 一方で、10年後、20年後の目標を定め、それに向けて10年、20年どう活動するべきか、自分達でロードマップを作るという考え方もある。解決策を4年ごとに作り、チェックするという体制になると、20年という期間は必ずしも長いわけではない。基本計画4年というのがあるため、新しい技術の登場やライフスタイルの変化に応じて改訂していく。

<p>6. 議事 (1) 牛久市第4次総合計画の策定について(続き)</p>	委員	一方で、基本構想が20年間変わらないものであれば、例えば16年後に基本計画を定めるタイミングで基本構想に縛られると、逆に足かせになるのではないかと懸念がある。かなり時間が経過した時点で、基本構想は果たして有効なのか、どこかで基本構想自体を見直すタイミングが必要ではないかと考えている。
	事務局	どちらの計画においても、変更の必要性があれば速やかに見直しをするという文言がある。今ご指摘があった通り、大きな修正があった際は随時見直しをすることは必要と考える。
	会長	15ページ(施策大綱の分野)に記されている、まち・ひと・しごと創生総合戦略と基本政策を整合させるという議論があるが、そうするとこのマス目の中にある「結婚」と「農業」のレベルが合っているのか。もう一段階必要な場合も出てくると考える。
	委員	現在牛久市でも40代50代で独り身が多く、晩婚化という問題が出ている。市としても仲人役をやるような施設があるのかと今までは思っていたが今はないようだ。市の方でも地域の状況を鑑み、結婚相談をするところがあっても良いのではないかと。結婚すれば子どもが生まれ、人口も増える。抜けている所ではないのかと思う。
	会長	まさにご指摘の通りで、総合戦略の中でかなり上位。牛久市での出会いと結婚。総合戦略を策定した当時から指摘は共通であった。若い人、結婚出産の適齢期にある人をターゲットとした施策を取り組むべきではないか。真剣に取り組まなければいけないテーマだと考えている。
	委員	女性の社会進出というのも大いに結構だが、子どもを産んで育てるといのが難しくなってくる。日本の課題でもある。
	委員	奥野地区において出会いの場としてイベントを開催したが、女性に対し、男性の参加者が少なかった。昔は仲人役がいて結婚に至ったこともあったため、未婚の人は少なかった。今はそういう世話人がおらず、広範囲で出会いの場を作っていくかといけない。
<p>6. 議事 (2) 牛久市第3次総合計画後期基本目標進捗状況について</p>	事務局	事務局より配付資料に基づき、説明。
	委員	1.健康福祉の4.障害福祉 福祉サービス・地域相談支援の受給率について、この評価の「○」は福祉全体の評価なのかを確認したい。 また、2.教育文化の1.心の教育 きぼうの広場を利用した不登校児童生徒のうち学校に復帰した児童生徒の割合も「○」となっているが、実際に教育支援委員会にも出席しているが、○ではないと感じる。もっときめ細やかに福祉の政策について議論していただきたいと考える。
	事務局	目標指標に対する結果への評価であり、その評価が政策全体の評価となっているわけではない。
	委員	総合計画の7つの柱の生活環境の中に共生とある。共生社会という概念について、牛久のグループホームで一生を終えたいという方々から

<p>6. 議事</p> <p>(2) 牛久市第3次総合計画後期基本目標進捗状況について(続き)</p>		は拒否感を抱く場合もある。よく議論していただきたいと考えている。
	事務局	また次回、丁寧に議論していきたい。
	会長	<p>1. 健康福祉の 2. 子ども福祉 保育園待機児童数の目標が 0 となっており、それは良いことだと思う。待機児童が 0 だから移住したいと思ってもらえるかもしれない。</p> <p>一方で、目標が達成できていないということは、この戦略は一つの足かせになっているのかもしれない。ここに出ているキーワードが、施策に繋がっており、それに基づく指標となっているはずだ。数値と政策のつながりは整理すべき。目標値を出すことを目標にせず、その数値がどのような意味を持っているかを認識したうえで議論をすべきであろう。</p>
	委員	2. 教育文化の 5. 文化・芸術 牛久市文化協会加盟団体数について、平成 30 年度の目標値を提出する期限は決まっているのか。
	事務局	その目標値を設定したのは、後期基本計画を策定した平成 28 年である。総合計画の中では、最終年度の目標値しか記載しないため、最終目標値を設定いただき、各年度の目標値をそこから決定した。
	委員	平成 28 年度や 29 年度の目標値が微妙に違っているため、1 度に 3 年分をまとめて出したのであろうと感じた。
	会長	<p>5 年前の策定時には団体数を増やすことが前提で設定している。そもそも団体数が増加することが良いことなのか、現状維持でも質が上がれば「○」ではないかという議論もあるが、5 年前は団体数の増減が判断基準であったということであり、次回の基本計画においてはまた考え方が変わる可能性はある。本審議会での意見が基本計画に活かされる可能性もあるので、ご意見をいただければと思う。</p> <p>次回から、第 4 次総合計画の基本構想の内容について議論したい。</p>
	事務局	次回は 4 月の開催を予定している。日程は調整するが、目安としては中下旬を想定している。

以上